

令和元年度 “ふじのくに”^{しみん}士民協働 施策レビュー 改善提案とりまとめシート

1 基本情報

政策	政策4 誰もが活躍できる社会の実現		
政策の柱	4-2 次世代を担うグローバル人材の育成		
議論した施策	(3) 魅力ある高等教育の振興		
実施日/班名	9月7日(土) 第3班	担当部局名	文化・観光部 大学課

2 施策改善提案

県立大学の存在意義をこれまで以上に県民に伝える必要があり、そのための具体策として以下のような取組が考えられる。

- 県立大学の成果の可視化(卒業後すぐに県内で就職することだけが県立大学の意義ではない)
- 教育の質の充実と評価の可視化(定性評価以外の評価軸の設定)
- 出張講座の増加など、高校生へのアプローチの強化と中学生へのアプローチの実施
- 企業と学生のマッチングの強化による学生の県内企業の認知度向上
- これまで以上に県内大学間の連携強化を促進

これらの取組により、県民が県立大学の活動内容を知ることや学ぶことで、静岡県を好きになり、仮に県を離れたとしても静岡への愛着を持ってもらうことが「魅力ある高等教育」といえるのではないかと。

- ふじのくに地域・大学コンソーシアム等が高等学校を対象に実施している出張講座等を中学校まで拡大し、早期に高等教育に触れる機会を創出するとともに、児童生徒や保護者等へ大学の情報発信を行うなど、県内大学の魅力の発信が必要
- 大学等と地域企業とのマッチングや連携を支援し、研究成果の民間活用と地域への還元を促進すべき
- 大学と連携し、地域企業が求める人材像を調査・把握し、地域に貢献できる質の高い人材の育成を促進すべき
- 大学の質の向上を継続的に図る評価については、自己評価だけでなく第三者からの外部評価及び分析をするとともに、評価基準や内容等を公表することが必要
- 学生の大学に対する評価等を実施し、継続的な改善により学生の満足度の向上を図ることが必要